

Title	ドメインと競争体制の構築についての一考察
Sub Title	
Author	四條亨(Shijiyou, Tooru) 嶋口充輝
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第1002号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-1002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ドメインと競争体制の構築についての一考察

本研究では、今日の「取り引きから取り組みへ」といわれる変化に応じて、顧客にとっての価値を充足するような仕組みを「競争体制」ととらえている。そのような体制構築に際しては、ドメインの定義・再定義が行なわれるが、どのようにそれらが定められ、競争優位を形成するののかについて考察を行なっている。

これまでのドメイン論と競争地位についての理論研究と、フォーカス型で新マーケットを形成した企業ならびに顧客と技術で滲出型で事業拡張をした中堅企業の事例研究から構成されている。

ドメインの役割は競争地位によって異なり、当初は製品などリジッドなものだが、徐々に発展的なものとなり、そして制約的な役割にいたる。しかしここではドメインがアプライオリに定まるかどうかよりも、資源制約下でいかに有効な競争体制を構築するかが鍵となる。それはどのように顧客が求める価値を顕在化して取り込むかが大切になる。

その際、競争体制はシステムとして構成されていることから、顧客の価値に対応して、自社の機能と必要に応じて他の機能を編成する力が、その企業の優位に寄与するのである。それは社内外の必要十分条件にも左右されるが、トップ・マネジメントを中心にどのような事業の構想、事業コンセプトを持つかにかかっている。